



白子川な人

(その8)

「川が人と人とを結ぶ」と言う

駒井康一郎さん

(西大泉在住)

ぶん／東谷 篤

■「岡山の田舎育ちだから、川で泳いで魚とって、それが当たり前でしたからね。私は本能的に川を求めているようなところがあります。ここ大泉に生まれ育った子どもたちも、ひょっとして本能的に川を求めるのかもしれない」と、時々定例の川掃除に、お坊さんのような頭で登場する大男、駒井さんは言う■白子川に初めて取材に訪れた時、その目をひいたのが『みんなの白子川』プレートだった。「だって、ずうっと家ごとにかけてあるでしょ、あのプレートね。どんな団体なんだろうって、何だか怖い気もしましたよ。関わってみたら何かわかるんじゃないか、って活動に参加してみたんです」■「こんなにたくさんの“ファン”をひき付けている白子川源流・水辺の会。源流まつりだって、食べ物なしであんなに人が集まるのが不思議ですよ」。そしてわかったこと、川との関わりの場は、人との関わりの場でもあった、ということ。「こんなに地域的な拮がりを持った団体は区内でもあまりないんです」。こう話す駒井さん、実は区の外郭団体「都市整備公社」の「練馬ま

2011年12月

第34号

「白子川源流・水辺の会」の会報誌

- ◆第11回 白子川源流まつり 報告
- ◆アユの一生 (アユ prj2)
- ◆【投稿】じいさんばあさんの“道路ばなし”
- 新会員紹介
- 定例活動報告 <アオダイショウがいた！>

源流まつり、子どもたちに人気のまちセン「白子川パッチ」コーナーで



ちづくりセンター」(通称“まちセン”)の職員である■“まちセン”にも、退職者が地域を求めてやってくる、と駒井さんは言う。「誰かと話したい、関わりたい、自分を確認したい。何かその“拠点”となるようなものを求めて、訪ねて来るんですね。この会は、そういう意味ですごい活動をしています」。駒井さんはこう言った後、人なつっこい笑顔で、こんなふうにつけ加えた。「私も参加する回数が増えてきました。これからも参加させてもらいますが、それはきっと、仕事の取材というよりも、“一地域住民”として、ですよ」と。

定例活動報告

8月、9月、10月、11月

アシの茂みの中に、入っていくアオダイショウ。頭はもう30cmも奥にある。長さのほどがわかる。



□源流域・水の測定データ

測定地点	天気 気温 項目	8/28	9/24	10/23	11/26
		35.0	26.0	自	12.2
源流部	水温℃	20.9	17.7	川源	16.1
	水深cm	18	23	流	15
	pH	5.4	4.7	?	5.6
井頭橋	水温℃	21.2	17.9	中	15.5
	水深cm	29	35	止	29
	pH	5.3	4.9	?	5.8

このほか、透視度、電気伝導度、COD、川幅、堰の流量などを測定している。

□白子川源流域の様子

★夏から冬にかけて …水量は？

去年の夏は源流部が渇水状態になったが、今年の夏は、なんとか水量を維持していた。秋にかけては、水量が増し、豊かな湧き水の姿を見せていた。しかし、冬場にかけて、次第に水位が下がり始め、木道の近くは、ドロドロの状態になりつつある。

…こんな生きものたちも！

●動物

8月、体長が1メートル以上もありそうなアオダイショウが井頭橋先の石垣から突然現れ、くねくねと川を泳いで、アシの茂みに入ってしまった。他にホトケドジョウが多数とフナの稚魚を確認。

9月には、カワセミが出現。源流近くに巣があるのではないだろうか。他にアブラハヤの稚魚を確認。11月、シマドジョウを確認。ここでは個体数が少ないため、なかなかお目にかかれない。

●植物

夏に大きく勢力を拡大するカンガレイ、ウキヤガラ、ガマなどの背丈のある植物。定例時の刈り取り作業が大変！寒くなると、オオフサモが再び勢力を盛り返してきた。植物も、季節毎にすみ分けたり、相手が弱っているスキに勢力を拡大しようと生存競争を繰り広げている様は、興味深い。

活動記録

8/8	学生ボランティア体験受入れ	10/8	源流まつり実行委員会
8/28	定例活動	10/10	TOTO株24年度助成金申請書提出
8/31	源流通信第33号発行	10/20	TOTO株、白子川の活動状況視察
9/10	源流まつり実行委員会	10/23	第11回源流まつり
9/17	柳瀬川ヘアユの実態調査	10/28	白子川河川改修(八の釜付近) 工事打合せ一都第四建設事務所主催
9/24	白子川グッズ作り一みどり広場 (竹炭、わら筆、プレート焼印)	11/5	新河岸川流域懇談会(魚道など)
9/25	定例活動*	11/6	「おまつりひろば」に出展
9/27	大六小4年生が白子川訪問	11/19	源流まつり反省会
10/3	大南小4年生の特定グループへ 白子川学習の短時間サポート	11/27	定例活動*
		12/8	TOTO株、助成金の為のヒアリング

* TOTO水環境基金のTOTOグループ社員、家族が川活動に参加

新会員紹介 ☆ 八本賢二

大泉に引越してから3年ほどたちますが、地域に根ざした活動を何かやってみたい気持ちはありましたが、どのような活動が行われているか全く知らなく、何もしないでいる状態でした。

たまに井頭公園に行きましたが、子供を遊ばせに行く程度でした。川に近寄って見ると水がきれいで湧き水がブロックの隙間から出ていて驚きました。大泉という地名だけあって水が出やすいから？と思いました。自然に湧き水が湧いている珍しい場所で大切にしていきたいとも感じました。

私の子供は大泉南小に通っており、学校公開のあと、父兄を対象に「水辺の会」の話菅沢さんにしていただく機会がありました。説明の最後に「明日、13時半から活動があります。興味がありましたら、サンダル履きで立ち寄ってください」と話があり、翌日13時半に行き、お手伝いをさせていただきました。その翌月もお手伝い、翌々月もお手伝いをしているうちに入会していました。

一人でできることは限られていますが、数人集まれば形にすることができます。月1回の活動をなるべく永く続け、白子川の昔の話など多く聞ければと思います。よろしくお願ひします。

お世話になっています！ 『大泉 ボランティア・地域福祉推進コーナー』



同コーナーは練馬社会福祉協議会の事業所で、当会では、チラシの印刷、焼印プレートの販売展示などで以前から大変お世話になっています。今年と同コーナーより、多くのボランティアをご紹介いただきました。

8月…学校の課題『夏休み中のボランティア体験』を求めて来所した男子学生について紹介があり、2時間ほど川を案内した。

10月…武蔵中学2年生男子5名のボランティア希望があり、源流まつりの各コーナーを手伝ってもらった。

11月…白子川に興味があるという高校2年生の紹介を受け、「こぶし広場イベント」と「11月定例活動」で大活躍してもらった。

元気です

水槽のメダカ

当会で差し上げたメダカが元気に育ち、お客さまの人気者とのこと。



ホタルの幼虫

源流の生きもの



カエル



水質検査



有害化学物質



雨水浸透ます



縄文遺跡

展示コーナー



第11回

白子川 源流まつり

10月23日(日)

(大泉井頭公園)

主催：白子川源流まつり実行委員会

後援：練馬区



協賛店ボード



ボーイスカウト練馬第17団



練馬まちづくりセンター



ホトケドジョウの会
ふれあい広場



TOTO株式会社



ポラン書房

下水道談話



はらっぱ音楽隊

ゴーバックサタデイズ



第11回 白子川源流まつり



大泉南小学校4年生「白子川調べ学習」



ぶんぶんゴマ



わら筆



どんぐりゴマ

かるがも焼印



白子川グッズ



復興応援焼きそば

東北応援☆☆
ありがとう

大泉地域の声 じいさんとばあさんの“道路ばなし”



大泉はいいところだ

じい「ばあさん、寒いなあ。わしら、大泉に越してきて何年になる？」

ばあ「50年かな」

じい「東京オリンピックの頃だったなあ。ここら辺は淋しい所だったけど、すっかり町らしくなった」

ばあ「えっ、でもまだ“村”みたいなもんだ。畑は多いし静かだし、人と会えば挨拶するし、近所づき合いもいいし、もうここは離れられないよ」

じい「おれの故郷はもう誰も居ねえけど、大泉は、子どもたちと孫たちにしてみりゃ“故郷”だなあ」

大二中のこれからは？

じい「ばあさん、知ってるか？ 大二中(大泉第二中学校)のど真ん中を、135号と232号っていうでっかい道路が通るはなし」

ばあ「知ってるよ。そんな学校に孫は通わせたくないねえ」

じい「新青梅街道並みの16m道路が学校に切り込んで校庭はまっぶたつ。車の排気ガスや騒音なんかで、もうメチャクチャ。教育以前の話だよなあ。練馬区は人の命をどう思ってた？」

ばあ「それでも、学校を移す場所はないっていうし、道路を地下とか高架にするのも無理みたい」

じい「それなら、建設をやめるか延期するしかないと思うだが」



(東京新聞より)

気づかいながら歩ける町

じい「大きな道路ができるのと町が良くなるって区は言うけど、おれには信じられねえなあ」

ばあ「なんで？」

じい「道路ができるのと遠くの町へ行って買い物したくなるもんだ。大きな道路は渡りにくいし、そのうちに、地元商店で買い物する人だってだんだん減っていく。“まちづくり”のはずの道路が、結局は“まちこわし”となった例は全国のあちこちで起きてるらしいよ…… おい！ ばあさん！ 居眠りしてんでねえ！」

ばあ「聞いてるよっ。地元で買い物って楽しいもんだよ。店の人とおしゃべりしたり、知ってる人に会ったりさ。思うんだけど、人も犬もバギーも自転車も車も、相手を気づかいながらゆっくり通る……。そういうの、いいよねえ、じいさん！」

じい「ん？ ばあさんも、たまにやまともなこと言うでねえか」

“練馬らしい風景”ってなに？

ばあ「でも、役人は決まってることはヤルよ！」

じい「じゃあなにかい、おれたち、役人のために生きてんのかい？ そんなの、おれはやだね。この土地のことを一番知ってるのはおれらだ。来年も、さ来年も、ずうーっと大泉で生きてくだ！」

ばあ「このままだと、学校も大泉もズタズタだね。区長が言う『練馬らしい風景を残そう』って、ありやなんのことだろね？ それに、232号っていう東西の道路は、白子川の源流こわすらしいじゃないか。縄文時代からの大切な湧き水が今も出てんだよ！ おら、めったに怒らねえけど道路のことは許せねえなあ！ 地域のつながりとか学校環境とか静かな町とか自然とか…こわしていいのかい？ 区民を無視するようなこと続けたら、おら、次は応援しねえよ！」

じい「そうだな！」

創作：H.S（南大泉在住）

都市計画道路事業の流れ



※練馬区23年度予算計上済み

135・232号間連情報は区のHPで 入手できます

【C=クリック】

トップページ ⇒ 「暮らしのガイド」C ⇒ 「テーマから探す」から「住まい、交通、道路」C ⇒ 「道路」C ⇒ ページ最下段「都市計画道路」C ⇒ 「区内の都市計画道路」C ⇒ ページ最下段「大泉学園駅南側地区 補助第135号線、232号線について」

TOTOショールーム便り

12月15日(木)、助成金をいただいているTOTO株がスタートさせた【TOTO GREEN CHALLENGE】の一環として開催しているイベント『茶道文化における「水の大切さ」を語る』に参加しました。

講師の裏千家正教授・米澤宗美氏からは、「茶道における水に纏わるお話」「季節のお話」「日本人として大切にしたいマナー」などについてうかがいましたが、どの話も、日本の歴史の奥深さを感じるものでした。
(菅沢 博)

■次回は、1/19(木)『苔玉つくりと‘やきもの’に親しむ』

講師・湯川紀子さん(「ぼんさい手帖」主宰)

参加ご希望の方は、TOTO株 03-3345-1010

ショールームには、「企業理念」の横に当会の焼印プレート「みんなの白子川」。しっくりと調和している！



ヤナギタデ



9月頃から源流部で目立ち始めるタデの一種です。マタデとも言い、水辺に育ちます。タデ類は、よく似たいくつかの種類があり、見分けるのが難しいところがあります。

もう一つポピュラーなものにイヌタデがあり、葉を噛んでみて辛いのがヤナギタデで、味が無いのがイヌタデですが、そこまでの確認はしていません。

ヤナギタデの高さは80cmくらいまでになり、茎が赤いのが特徴です。葉の表面はつるりとしています。

■今後のスケジュール

- 1/22 定例活動
- 2/ 4 地域活動団体大交流会
10:00-16:00 区民交流センター
- 2/26 定例活動
- 3/25 定例活動
- 4/22 定例活動

☆定例活動は13:30～



アユの一生

白子川にアユを呼びたい。

川が人の日常生活から遠くなり、川について考えるきっかけさえ持てない現状です。子どもたちは川で遊べなくなってしまいました。アユをはじめとする川の生き物たちの世界を知れば、川を身近に感じられ、川を守り将来へ伝えることに目が向くのではないのでしょうか？(菅沢 博)

アユの命はわずか1年



編集後記

▼10年ほど前、巨大サボテンが河川敷のフェンス沿いにニョッキリ立っていた。「おおっ！」と写真に収めたが、いつからか姿を消した。先日、偶然その持ち主から話を聞くことができた。あのサボテンは川の工事で切らざるを得なかったが、挿し木で見事に根つき、大事に育てて花も咲いたと。(さ)

▼定例活動で嬉しいことの1つが、知らない誰かと関わること。公園で出会った人とことばを交わしたり、ちっちゃな子どもと遊びながら刈り草の袋づめしたり。いつかは、胴長はいて川に入っていたら、「おじさん、ご苦労さま！」と若いお父さん。こちら“お婆さん”としては、とてとても楽しい。(け)

※この会報は年3回発行しています

発行 白子川源流・水辺の会
編集 東谷 篤/東谷貞子/菅沢恵子
題字 宮本沙海
発行部数 1,200部
代表 菅沢 博 03-3923-8430
練馬区南大泉 1-10-5
suga-lohas@jcom.home.ne.jp

http://www.geocities.jp/sirako_river/